

令和7年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第3学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○習得した漢字を正確に書いたり、文章の中で使ったりする力が弱い。 ○自分の考えを書いたり、順序立てて伝えられなかったり、一文が長くなってしまったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字を学習する際に、その漢字の意味や成り立ちを確認したり、短い文章を作らせたりする。日常的に漢字を使わせる。 ○自分の考えを言語化する場面を工夫する。主語や述語を意識して短い文章を書くように継続的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を書く活動の際には、既習の漢字を使うように声をかけ、定着を図ることができるようにする。 ○自分の考えを表現する際に話型や文型を示すことで、主語や述語を意識して話したり、順序立てて文章を書いたりすることができるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○地図等の資料の内容を読み取る力が不十分である。 ○資料の読み取りをもとに、自分の考えをまとめることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りのための目的や視点を示し、意欲的に取り組めるようにする。 ○課題解決のために、どのように資料を読み取り、まとめたらいのか、視点を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの疑問から学習問題を作ること、資料を読み取る必要性を感じられるようにする。 ○資料を読み取る方法を示す。クラスの友達の意見から手本を示し、各自で意識できるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを図や式に表すことに意欲的に取り組む児童が多いが、自分の考えを言葉で説明することに課題がある。 ○基礎的な計算や数の概念についての理解に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを表現するためには、図・式・言葉などの様々な方法があることを知り、表すことができるようにする。 ○家庭学習や朝学習などの時間に繰り返し復習する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の表現方法を振り返って活用したり、様々な表現方法を自分の考えに生かしたりする児童を取り上げて紹介する。友達の考えを説明する経験を積ませる。 ○既習事項を繰り返し復習することで、基礎基本の徹底をはかる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○事象について、似ているところや違っていているところについて図や文章にまとめることに差がある。 ○実験結果を基に、どのようなことが明らかになったのか考察し、まとめることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験・観察の視点を明らかにして、比べるように、指導する。 ○考察の書き方を確認し、形式に合わせて書き始め、少しずつ自力で書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気付いたことを児童同士で共有した上でノートや観察カードに考えをまとめるようにする。 ○理科ノートに貼ってある考察の書き方を確認する。考察のポイントを明らかにし、互いに共有しながら、考察をまとめる力を高める。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○運動神経や体格、体力に差が大きくできる児童とできない児童で意欲の差が生まれる。 ○活動中に話をしたり、ルールを守れなかったりする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点を絞った指導を心がけ、発達差に関わらず取り組めるポイントを提示する。 ○安全に活動するためのきまりを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「全部を一度に直す」ではなく、学習のねらいを1～2点に限定する。また誰でも取り組める共通ポイントを絞ることで、発達差があっても授業に参加しやすい環境を整える。 ○「なぜルールが必要なのか」「ルールを守らないとどうなるか」など、体験を通じて学ばせ、安全や楽しさに繋がることを実感させる。
音	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しみながら意欲的に音楽活動に取り組む児童が多い。しかし、リコ 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の習熟状況を把握し、習熟度に合った声掛けや、ねらいを明確にし 	<ul style="list-style-type: none"> ○常時活動としてリコーダーの練習に取り組んだり、児童同士で学び合

楽	<p>ーダーなどの器楽の技能において個人差がある。</p> <p>○楽曲を聴いて想像したことや感じたことを言葉で表す力が十分である。</p>	<p>た練習を行う。</p> <p>○音楽を形づくっている要素名や感じたことを表す言葉を適切に指導することにより、音楽的な語彙を育成する。</p>	<p>う機会を設けたりすることで、継続して技能の定着を目指す。</p> <p>○音楽の要素に関するカードを使ったり、意見交換の場面を増やしたりすることで、言語活動の充実を図る。</p>
図工	<p>○自由な発想をもつてのびのびと表現を楽しんでいる児童が多いが、はさみやボンドなど、基本的な道具の使い方が十分に身に付いていない児童がいる。</p> <p>○きまりを守って学習に取り組むことができる児童が多いが、時間度入りに片づけることが苦手な児童がいる。</p>	<p>○道具によって適切な使い方があることを知り、表現したいことにあわせて正しく使うことができるようにする。</p> <p>○片付けの時間を十分に確保しつつ、時間内に片付けが終わるよう、児童に合わせて具体的な助言を行う。</p>	<p>○ICTの活用をしたり、板書を工夫したりすることによってポイントを分かりやすくし、技能の定着を図る。</p> <p>○一人で作品作りをしているわけでは無いという点や、次に使う人に対する思いやりについて指導し、意識をもたせる。片づけ方が分かるよう、説明や板書を明確にする。</p>